

【33】

氏名(本籍)	ひさ だ けん いち ろう 久 田 健 一 郎 (東京都)
学位の種類	理 学 博 士
学位記番号	博 甲 第 146 号
学位授与年月日	昭和57年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 1 項該当
審査研究科	地球科学研究科 地質学専攻
学位論文題目	Stratigraphy and Geologic Structure of the Chichibu and Northern Shimanto Belts in Kanto Mountains, Japan (関東山地秩父帯・四万十帯北部の層序および地質構造)
主査	筑波大学教授 理学博士 猪 郷 久 義
副査	筑波大学教授 Decteur-ès -Science 佐 藤 正
副査	筑波大学教授 理学博士 青 木 直 昭
副査	筑波大学助教授 理学博士 野 田 浩 司

論 文 の 要 旨

最近、日本各地の中古生界の研究は微化石層位学の進歩に伴って急速に変貌しつつある。本論文で取り扱った関東山地南部も、これらの観点から再検討が望まれ、著者は秩父盆地の南から奥多摩地域まで東西約 25 km の広い山岳地域を精査した。その結果、多くの新知見を得たが、その主な内容は以下の通りである。

(1) 本地域の地層は北の秩父帯に御荷鉾変成岩類、橋立層群、二子山層、武川岳層、子ノ山層、浦山層、天目山層、川乗層、倉沢層、日原層が識別され、四万十帯北部に雲取山層、青岩谷層、鴨沢層、大成層が発達する。これらの地層の大部分は著者の詳細な野外調査に基づく新称あるいは再定義である。

(2) 秩父帯の地層は、従来いわゆる秩父系と鳥ノ巣石灰岩を含むジュラ系とされたものである。著者は多くの地点からフズリナ、放散虫、コノドント等の化石を見出し、橋立層群は二畳系～三畳系、二子山層は二畳系、他の地層はすべてジュラ系であることを明かにした。

(3) 新しく放散虫によって識別されたジュラ系の地層中には、二畳系のフズリナを含む石灰岩礫岩や岩塊、三畳系コノドントや放散虫を含むチャートが礫あるいは異地性岩塊として含まれていることを明かにした。これらの新知見からジュラ系は海底でのグラビテイスライディングによって生じたオリストストロームであるとの結論に達した。

(4) さらにこれらの地層の堆積環境や地質構造の解析から、本地域のジュラ系は、現在の太平洋プレートと日本列島深部への沈み込みによって形成されている島弧—海溝系の付加帯にみられる堆積・構造様式に近似することを指摘し、従来の見解と著しく異なることを明らかにした。

審 査 の 要 旨

日本列島の中古生界の構造発達史は、これまで地向斜・造山運動モデルによって組み立てられてきた。最近のプレートテクトニクス説に立脚した島弧—海溝系モデルによる検討はここ数年の間に九州・四国・紀伊半島の四万十帯で主として行なわれてきた。関東地方では、本研究が初めての試みであり、本論文のもつ意義として次の二点があげられる。

(1) 本論文は広範な精度の高い野外調査と、多くの微化石による各地層の時代論に立脚している。含有する異地性岩体の時代も明確にし、複雑に分布する地層の層序を樹立したことは重要な貢献である。

(2) 島弧—海溝系の付加帯に類似した地質構造が関東山地に於て、四万十帯のみならず秩父帯の中帯・南帯にも広く認められることを明らかにした点は従来の日本列島の構造発達史に対し再考をうながし、新しい視点からの体系化を求めている。

なおこの研究での地層区分、地質構造解析の論旨の進め方に若干の問題点がないわけではない。この点が本論文の価値を損うものではないが、今後さらに研究を進めて行く過程で十分検討することが望まれる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。